

「無職研究所」の設立と室長就任の報告、 「無職・イン・レジデンス」今後の目的、新指標「無職スペクトラム(仮説)」について

タカハシ'タカカーン'セイジ

「無職・イン・レジデンス」を開発(2014年2月7日)／実施／提唱しているタカハシ'タカカーン'セイジが、この度2014年11月2日、「無職研究室(Mu Lab.)」を設立いたしました。

初代研究室室長として私タカハシが就任いたしましたことを報告いたします。

無職研究室は、現在定義されている「無職」の定義を社会へ問い直し、新たな創造を目的に、調査／分析／研究活動を行ってまいります。

また、「無職・イン・レジデンス」開発の発端は、「働いている無職もいるのではないか？」という疑問からでした。つまり、無職とは職(または仕事)の有無や収入の大小でのみで測るものではないのではないかと。

着想から現在までの「無職・イン・レジデンス」は、「目的を定めず、結果を求めず、無職とレジデンス・スペースのオーナーが一定期間暮らす場」として定義していました。

今回、無職研究室の設立を機に、「無職・イン・レジデンス」は、「あらゆる人々の無職性を抽出し無職の幅を知る／知ってもらうべく、調査／対話を行うリサーチ／実地・滞在型プロジェクト」と位置づけ、今後展開してまいります。

そして、「無職」の幅を広げる新たな取り組みとして…

個人に内包されている無職性、つまり無職の性質や状態を測る指標を提案いたします。

それが、「無職スペクトラム(仮説)」です。

「無職スペクトラム(仮説)」とは…まず、下図をご覧ください。



※1 無理職 ex. 仕事をしていて、時間の流れの遅さを意識する(退屈)等

※2 無意識職 ex. 仕事に没頭し、仕事に関わる事柄以外を忘却している等

仮題：市議会議員が精神を崩し退任、周囲からは「精神病患者」「無職」(肩書き、属性)と捉えられている人がいるとする。

当人は、市議会議員としての立場から言動を繰り返していた。

その状態は、「無職スペクトラム」において、職と人が一体になっている「無意識職」よりの状態であると捉えられる。

上図の通り、スペクトラムであることから、どの状態がよいというわけではなく、まずそれぞれの個人がどの状態であるのかということ把握し、暫定的に求められた数値とその個人による認識とのズレを知ることが重要であることを提言いたします。仮説立ての動機である問い「働いている無職がいるのではないか？」は、この「無職スペクトラム(仮説)」を元に、調査／分析／研究活動を行うことで実証できるものと考えております。

最後に、無職は「属性」から「状態」の時代へと突入する契機に、無職研究室の研究成果が役立てることを願い、この度の発表を締めくくりたいと思います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

以上



Tel: 090-1718-9190

Mail: info@sejitakahashi.net